

政策重点分野（量子技術分野）

プログラムオフィサー（PO）としての募集・選考・採択・推進に対する基本的方針



プログラムオフィサー

いしうち ひでみ

石内 秀美（キオクシア株式会社 技術改革推進部・部長附）

「共創の場形成支援プログラム」における政策重点分野（量子技術分野）では、大学等を中核機関とする「量子ソフトウェア研究拠点」と「量子慣性センサ・光格子時計研究拠点」の形成を目指した提案を募集します。提案に際しては、公募要領の本紙と別紙に記載されている内容を踏まえていただく必要がありますが、ここでは、PO としての考え方を改めてお示しすることで、提案をお考えの皆様のご理解の一助としていただきたく存じます。

（1）本プログラムの趣旨に合致したものであるか

これは、私から最初に問いかけたい最も本質的なことであり、選考および採択はもとより、プログラムの運営中も常に念頭に置きたいことと認識しています。SDGs に基づく「拠点ビジョン」（ありたい社会像）が何か、ビジョン主導すなわちコト（issue）に基づく研究開発と拠点形成をどのように進めるか、そしてこれらを前提として「量子技術イノベーション戦略」等の国の分野戦略にどのように貢献するか、等について提案書で具体的かつ明確に記載していただきたく存じます。

（2）先行研究・関連研究との相違点は何か

「量子ソフトウェア」ならびに「量子慣性センサ・光格子時計」とともに、ここ数年の間に日本国内で相次いで公的な研究開発プロジェクトが発足しています。海外でもこの分野では活発な研究開発がなされています。上記のように、本プログラムでは拠点形成とともに研究開発を進めていただくことから、国内外の先行研究や関連研究との差異は何か（本プログラムならではの特徴は何か）について、提案書で具体的かつ明確に記載していただきたく存じます。なお「量子慣性センサ・光格子時計」については、本プログラムにおいて量子慣性センサと光格子時計を一つの枠組みのもとで実施する利点は何か（どのようなシナジー効果を生み出すのか）についても、提案書で具体的かつ明確に記載していただきたく存じます。

(3) どのように魅力的な拠点形成が図れるのか

私自身は、エレクトロニクス産業を支える半導体デバイスの研究開発や生産技術開発に従事してきました。また産学連携研究開発やオープンプラットフォーム作りにも関係してきました。このような背景・立場から見ると、量子技術分野は、研究面はもとより人材面でも発展途上にあると考えます。公募要領に記載されているように、将来的な自立した拠点形成に向けては、いかにして企業等からの投資を引き出しつつ、関連技術の実用化・事業化支援等を推進するのかが肝ではありますが、これらの担い手である人材（特に大学等としての学生やポスドク等の若手研究者）をいかに育成し、輩出するかといった視点を持っていただくことも重要と考えます。分野に関わる研究者数を拡大させることは、拠点のみならず分野自体の持続的な成長には欠かせぬ要素であると思いますので、どのような方策を執りうるのかについて、提案書で具体的かつ明確に記載していただきたく存じます。

以上、PO としての考え方をまとめてみましたので、公募要領と合わせて参考にさせていただきたく存じます。また今後の選考・採択・推進については、それぞれの分野の有識者の方にもアドバイザーとして加わっていただきつつ適切に進めていきたく存じます。

多くの魅力ある提案を、心より期待しております。

いしうち ひでみ

石内 秀美（キオクシア株式会社 技術改革推進部・部長附）

【経歴】

1978年 東京大学理学部物理学科卒業

1980年 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修士課程修了

1980年 株式会社東芝（入社時の社名は東京芝浦電気株式会社）入社

2016年 株式会社先端ナノプロセス基盤開発センター（EIDEC）代表取締役社長

2019年 東芝メモリ株式会社入社

2019年～ 東芝メモリ株式会社はキオクシア株式会社に社名変更

【専門】

半導体集積回路、特に半導体デバイス技術